



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

3. 日韓共同理工系学部留学生事業： 岐阜大学日韓特別プログラムについて(2000年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牟田, おりゑ, 中須賀, 徳行 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/3377

3. 「日韓共同理工系学部留学生事業」

岐阜大学日韓特別プログラムについて

留学生センター教授 牟田おりゑ・中須賀徳行

1. 事業の概要

1998年10月8日の日韓共同宣言（小渕首相と金大中大統領）「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」に基づき、韓国の高校を卒業したばかりの学生を我が国の理工系特に工学部で学部生として受け入れ教育することになった。その要点は次のようなものである：

- ・2001年4月から全国の国立大学で100名を学部を受け入れ、いずれ1000名にする。
- ・国費留学生に準じる扱いをする〔半数は日本政府が奨学金を出し、残り半数は韓国政府が負担する〕。
- ・高校卒業後、まず半年韓国内で予備教育を行ない、ついで10月から半年間日本の国立大学の留学生センターで日本語を中心に予備教育を行なう。
- ・その際専門教科教育も行なう。
- ・10月から半年間は基本的に留学生センター所属とする。

2. 岐阜大学の対応

岐阜大学でも文部省の意向調査に対して1998年11月12日の第5回留学生交流専門委員会で議論し、工学部に問い合わせたところ各学科で1名ずつ、計6名を受け入れ可能とのことであったので、留学生センターの教育機能も考慮の上その線で本省に回答した。

その後1999年9月6日に工学部と留学生センターの間で懇談会をもち、工学部側でこのプログラムに関する窓口を作り、具体的には教務厚生委員長があたることとなった。なお当日の出席者は、工学部側が熊田学部長、鈴木教務厚生委員長、若井留学生交流専門委員、武井学務係長、留学生センター側が中須賀センター長、橋本講師、宮谷助手で、学生部から高橋学生部長と荒木留学生課長も出席した。また2000年2月15日には連絡会をもち、工学部側から鈴木教務厚生委員長と武井学務係長、留学生センター側から橋本と宮谷が参加した。

2000年5月29日には大阪大学で「日韓共同理工系学部留学生受入れのための予備教育のあり方—期待される専門教科教育を中心に—」と題するシンポジウムが開かれ、中須賀が出席した。当日は韓国で予備教育を担当している慶熙大学校国際教育院の金教育部長が予備教育の実態について講演した。その際文部省の課長補佐からは、一大学への配置学生数は最大5人、ゼロはないようにしたいとの方針が示された。

2000年7月28日になって工学部と留学生センターとで専門教科教育に関する具体的な打合わせを行い、工学部からは大久保教務厚生委員長、嶋川留学生センター運営委員（留学生交流専門委員）、武井学務係長、留学生センターからは中須賀が出席した。ここでは、最初の年であるから丁寧に対

応したほうがよいとのことで認識が一致し、専門用語の修得のためにセミナー形式による数学、化学、物理（場合によっては生物も）の専門日本語の学習の機会を設けることとし、担当者は工学部の方で大学院生から選任してもらうこととなった。

同年9月8日、留学生センター会議で「日韓特別プログラム」(Dクラス)の設定を決め、一般日本語クラスは牟田、専門教科教育は中須賀が責任者として担当することとした。それに先立つ6月、特別クラスのために講師謝金として24時間/週 x 15週分、チュータ謝金として20時間/月 x 6か月分を文部省に要求した。なお十分な謝金が来なかった場合には、学長裁量経費を要求することにした。

さて学生の来日は配置問題などで大幅に遅れたが、10月30日名古屋空港に5名の学生が到着との連絡があったので牟田と木澤専門職員が公用車で出迎えに赴いたが、岐阜韓国教育院の金泰完院長も来てくださっていた。翌31日に学長や工学部長などの臨席のもとに留学生センターで開講式を行なったが、11月1日から岐大祭が始まったので、その間に外国人登録などを済ませ、11月6日から予備教育を開始した。

2000年12月11日には富山大学で「日韓共同理工系学部留学生プログラムの現状と課題」と題するフォーラムが開かれたので中須賀が出席し、大学間の意見交換や討論を行なった。また2001年2月27日には2001年度の本事業について説明会が東京大学教養学部であり、荒木留学生課長が出席した。この際韓国の予備教育では専門教科の学習に重点が移され、日本語教育の時間は半分以下になりそうだという話が披露された。

以下の報告からも分かるように、岐阜大学における第1期日韓特別プログラムは成功のうちに幕を閉じ、彼らは全員無事学部の1年生として育っていった。5人ともが真面目で勉学意識が高く、お互いに助けあい、また励ましあって勉学に努めたことが最大の要因ではあるが、担当の教師たちも親愛の情をもって教育に当たったので、教室の中で信頼関係が醸成されたことも大きかったと思われる。

3. 日本語予備教育に関する報告

実施期間：2000年11月6日～2001年3月7日（冬季休暇：12/23～1/10）

目的：2001年4月に岐阜大学工学部入学を目指す学生対象に、大学の講義を聞き取り、教科書を読解する能力を養成することを主目的とする。

達成目標：

学生は初級日本語を修了したばかりであるが、上記の「目的」に従って読解・聴解・文章表現・口頭表現に必要な語彙、漢字、文法力を高めることを主眼とする。その過程で発音矯正、口頭・文章表現訓練も行う。また、未習の語彙、漢字などを類推しながら理解するための技能習得も必要であると考え、並行して速読法、聴解訓練を行う。学部入学に必要な日本語レベル（日本語能力試験1級）を達成目標とする。

同時に、工学部の予備教育として行われる数学・化学・物理・生物の4教科に関する専門日本語の理解を射程に入れ、日本語教育と関連した内容とする。

参加学生：5名

達成度：日本語プログラムの達成度指標は以下の日本語能力試験1級（実際の能力試験と同条件で実施）の結果を参照されたい。

< 1999年度日本語能力試験1級(合格点70%=280点以上)実施結果 >

	聴解	文字・語彙	読解	合計	
学生1	94	+ 94.4	+ 158.2	= 346.6	86.7%
学生2	82.4	+ 82.2	+ 175.8	= 340.4	85%
学生3	76.5	+ 78.9	+ 155	= 310.4	77.6%
学生4	64.7	+ 74.4	+ 116.5	= 255.6	63.9%
学生5	44	+ 77.8	+ 124	= 245.8	61.5%

日本語・専門科目

本プログラムは日本語クラスと専門クラスから構成され、参加学生の履修した日本語クラスは週11(16.5時間)、専門クラスは数学、物理、化学、生物の4クラス(6時間)、セミナー1クラス(1.5時間)、週合計16クラス(24時間)であった。

来日時の学生の日本語能力測定のため、日本語能力試験3級問題を行ったが、全員合格点であった。本プログラム修了時に1級試験を実施し、その結果は5人中合格者3人であり、不合格の2人もかなりの得点をとっており、本コースの設定した達成目標はほぼ実現できた。

専門クラスは岐阜大学工学部博士課程の学生を教師として、工学部入学に必要な基礎学力、および専門教育に必要な日本語、とくに専門用語を修得させることを目的としたが、それぞれの科目において設定した高校教科書を読了するとともに、演習問題をも実施した。また毎回漢字の小テストを行い、復習を促すとともに理解度を常時チェックした。

学生のケア

参加者が高校卒業後間もないという年齢であり、外国生活が初めてということ等を考慮し、プログラム期間中に個別面談を行って勉学・生活面のケアにも細心の注意を払った。参加者の一人が来日直後に病院での検査が必要な事態になったが、その後経過は良好で勉学にも留学生生活にも支障なく過ごした。学生達の勉学・生活態度もよく、上記のような好結果となった。

見学・旅行・ホームステイ

プログラム期間中に2箇所の見学を実施した。また、地域コミュニティーによるホームステイ・プログラム、岐阜大学全留学生対象のスキー旅行などにも参加し、日本での留学生生活を充実させる便宜をはかった。

クラス編成

主に本プログラムの参加者のみの専用クラスとしたが、そのうち3クラスは選択科目として他の日本語コースと合同であり、1クラスは日本人学生とのディスカッション中心のクラスであった。大学入学のための学力をつけるという目的のために、目的意識の異なる学生と一緒にせず専用クラスにしたこと、いくつかは他の留学生と合同で、また日本人学生とのディスカッションのクラスも同時に行うことによって、非常によい結果を生み出せたと思う。

使用テキスト

以下は本プログラムで使用・修了したテキストである。

<日本語クラス>

- 1 荒井礼子他著『中級から学ぶ日本語・テーマ別』, 研究社, 1991
- 2 同上別冊『中級から学ぶ日本語 テーマ別 ワークブック』
- 3 三浦昭監修『中・上級者のための速読の日本語』, The Japan Times, 1998

- 4 西口光一他著『Kanji in Context 中・上級学習者のための漢字と語彙』, The Japan Times, 1994
- 5 同上別冊『Kanji in Context Workbook Vol.1』, The Japan Times, 1994
- 6 同上別冊『Kanji in Context Workbook Vol.2』, The Japan Times, 1994
- 7 友松悦子他著『どんな時どう使う日本語表現文型 500』, アルク, 1996
- 8 同上別冊『どんな時どう使う日本語表現文型 500 短文完成練習帳』, アルク, 1996
- 9 秋元美晴他著『ペアで覚えるいろいろなことば』, 武蔵野書院 (1996), 2000

<専門科目>

- 1 『数学 II』(数 II 669), 東京書籍, 2000
- 2 『物理 II』(物 II 652), 第一学習社, 2000
- 3 『新訂 化学 IB』(化 B614), 大日本図書, 2000
- 4 『生物 IB』(生 B634), 三省堂, 2000
- 5 東京外国語大学留学生教育教材開発センター編著『留学生のための基礎科学』, 三省堂, 1990

日本語コースの成績評価

学生番号, 面接 10%, 読解 10%, 科学技術日本語 10%, 小テスト 30%, 作文 10%, 総合 30%, 合計 100%, 総合評価 (学生番号は前記のものに準じる)

学生 2	10	9.9	8.8	28.2	9.9	27.3	94.1	A
学生 1	10	9.5	8.5	24.2	9.1	27.6	88.9	A
学生 3	10	9.5	8.1	26.6	7.7	25.5	87.4	A
学生 4	10	8.8	7.9	22.2	7.7	21.7	78.3	B
学生 5	10	9	7.7	21.8	6.7	19.6	74.8	B

4. 第一期日韓共同理工系留学生事業：工学部入学後の追跡調査 (2001.7.13)

第一期日韓共同理工系留学生事業予備教育プログラムを経て, 2001年4月に工学部に入学した5人の留学生の追跡調査を7月13日に実施した。目的は, 予備教育が学部授業履修に役立ったか, 学部生となってからの問題点などを把握することによって, 今後のプログラム実施に反映させるべき点, ケアをどのようにすべきか等の参考にするための聞き取り調査であった。7月13日に昼食会を兼ねて以下の質問に答えてもらったが, 出席留学生は3人で, 後に1人が文書で回答した。教師側出席者はコーディネーター2名と日本語クラス担当者3人であった。

大学の授業について

質問 1 1学期間の授業を受けて, 何が大変でしたか。語学的問題, 専門的内容の問題, 履修科目の数など, 例をあげて述べてください。

答 1: 専門科目は問題ない。人文科学系の科目では, 語彙, 内容の点で知らないことが多い。

答 2: 経済学の授業は専門用語が難しかった。他の人文系科目では先生の話に方言が混じり, 聞き取りにくかった。

質問2 授業の予習・復習にどれくらい時間をかけていますか。

答: 科目によって違うが、1科目あたり予習復習あわせて2時間ぐらい。

大学生活について

質問1 クラブ活動に参加していますか。週に何日、何時間ぐらいですか。

答: 卓球部, 写真部, 週3日, 一回3時間

質問2 日本人学生の友だちができましたか。授業を通して, クラブを通して, その他?

答1: 授業を通して, 隣に座る学生と親しくなった。クラブ活動を通して, 部員全員と友だちになった。

答2: 授業でもクラブでも友だちができない。日本人は仲間を作って, よそ者を入れてくれない。

質問3 悩みがあるときは, 相談する相手はいますか?

答1: 特に悩みはないが, 相談にのってもらうのは同国人の先輩。悩みで相談する日本人の友だちはできていない。

答2: 相談相手は韓国人の先輩。

予備教育の評価

質問1 1学期間, 工学部学生として授業を受けてきた結果, 4ヶ月の日韓プログラム日本語/専門授業について, どう評価しますか。工学部入学後に役立ったか, もっと強調してほしい点など。

答1: 予備教育で人文系の語彙・内容もカバーしてもらいたかった。

答2: 予備教育受講中は習っている日本語の必要性を感じなかったが, 工学部入学後, その必要性を感じ(もっと勉強しなかったことを)後悔している。

質問2 日韓プログラムのクラス構成は韓国の学生全員一緒でよかったと思いますか。それとも日本語レベルの違いによって, 別々のクラス構成の方がいいと思いますか。理由?

答1: 韓国人だけのクラスでよかった。発言をよくする欧米系の学生が入っていたら, 文化が違うために, やりにくかったと思う。

答2: 韓国人だけの日韓プログラムを受けたほうがいいと思う。日本語レベルによってクラスが分かると, どんな結果が出るかわからないが, 同じクラスだけでグループができる恐れがある。韓国で知り合っていなかった人達と同じクラスになって, 宿題や生活全般について相談しながら, 仲のいい友だちになった。